



異文化交流論

コップの外に出ようよ！
池や川を出て、海にこぎ出そう！



担当者： 岩野雅子

研究領域：異文化交流や異文化理解、異文化間教育やトレーニング、国際理解教育等

面接時間：必ず事前に相談に来て下さい。メール (iwano@fis.ypu.jp) でアポイントメントをとってください。

注意事項：日本語・英語の文献を読みます。英語は専門演習 I あるいは II 終了時までには、TOEIC650 点以上に達成することを求めます。

異文化交流論とは

異文化交流に関する諸課題を取り扱います。例えば、異文化理解・寛容性・適応・受容や異文化間コミュニケーションなど。異文化との遭遇の場としては、海外旅行、スタディツアー、海外への留学や就職、日本への留学・就職・定住などがあるでしょう。従来は国際交流や国際協力などの場における異文化接触の問題が多く取り上げられていましたが、最近では国内や地域における日常生活レベルの多文化共生にかかわる諸課題が取り上げられるようになってきました。

専門演習の進め方

専門演習 I（前期）ではテキスト、参考文献、資料等を読み、発表や討論を通して異文化交流に関する理解を深めます。前期は各自の選んだテーマに沿って企画書づくりを行い、日本語と英語でプレゼンテーションをします。

後期は卒業研究のテーマを考え、文献考察をして、フィールドに出て実体験を通じた異文化交流、異文化理解を進めます。

履修の条件

研究室に所属する学生には、次のことを義務づけます。

- ① 3年生終了時までには英語（中国語でも韓国語でもよい）の本学スタンダードをクリアすべく自主学習を行い、勉強会などに参加して、検定試験を計画的に受験すること。3年次当初と終了時の検定結果を提出してください。このため、本研究室に所属が決まった学生さんは、2年次の春休みの過ごし方（語学の自主的な学習）について計画的に時間を有効に使ってください。到達目標に達しない場合は単位が出せません。
- ② 「グローバルネットワーク論」（後期）を必ず履修してください。
- ③ 英語で開講される科目（特に前期）を必ず一つ選んで履修してください。
- ④ 3, 4年生合同の交流会・研修会を各学期に1回ずつ開催します。3年生が企画します。

今までの卒論テーマ

「言葉の教育」、「異文化間コミュニケーションのトレーニング」、「スタディーツアー・ワークキャンプについての考察」、「大島郡にとってのハイパーハイ移民を起源とする国際交流」、「海を渡る子どもたち—国際養子縁組における子どもたちのアイデンティティ」、「イギリスと玖珂町の国際交流—中高生の日英交流」、「和ブーム」 「異文化接触によるフラの文化変容」、「国際マナーとプロトコール」、「動物愛護の精神—日英の比較」 「Welcome to Japan : 山口県の国際観光の現状と課題」、「フェアトレード : 山口県での試み」、「在日留学生の卒業後の進路について」、「日本人の幸福論—LOHASやスローライフなどの新しいライフスタイルについて」、「現代韓国の日本語教育」、「山口県のNGO活動—タイ北部少数民族をめぐって」、「NGO団体の職員とは—タイとフィリピンの事例」、「ニューカマーの教育 : 岡山のブラジル人学校」 「グローバル人材育成」 「大学生の就職活動」 等

演習のアルバムから



異文化交流は、実際に体験してみても学ぶプロセスが大切です。地域の国際交流の場に出て行き、実際の活動に参加させてもらうことを通して、様々な視点を心得、多角的に柔軟に物事を考えるとともに、社会で求められている一般的な行動の仕方やマナーについて学びます。

従来、ゼミで海外フィールドワークを企画してきましたが、グローバル事業開始に伴い、海外フィールドワークとして様々なプログラムが開かれるようになりました。海外に興味がある人は、ぜひ全学で募集される語学文化研修、海外フィールドワーク、交換留学、日本語TAや、私費留学について留学アドバイザーの助言を得てください。

これまでゼミで企画運営してきた海外フィールドワークについて紹介します。

現場に出る前には、地域のNGO団体の方々とともに勉強会を開催します。大学生だから許される範囲はありますが、海外、特に途上国の現場を知る地域の方々の目は厳しいことを覚悟しましょう。フタディツアー参加後は報告書を書き、報告会を開催し、関係者に礼状を出します。



海外では様々な団体を訪問し、ミーティングを行います。事前準備を行い、問題意識をもって臨まなければ、相手の時間を無駄にするだけになります。シャープな質問ができた時は、相手や仲間から称賛されます。みんなの後についていただけという行動パターンを変えましょう。他人に頼らず、自主・自立して「自分」が問われる瞬間を体験するため、必ず一人一日はリーダーとなってもらいます。みんなの「目」が自分に注がれる緊張感に耐えましょう。



何のために学ぶのか、何のために大学に来たのか、他大学の大学生に触れ、海外の大学生に触れることで考える機会とします。

専門演習を選択する人へ

少人数で専門演習（1年間）、卒業演習（1年間）という長い期間を共有することになります。演習は自主的な学びの時間となります。何をすればよいのかの最低限のものは提示しますが、それを超えた自主的な姿勢を求めます。

ここで紹介した学びのルールを理解した上で、演習を選択するようにしてください。なお、専門演習を選択した人は、ここに示した事柄を理解しているものとみなして演習を開始します。

※4月の第1回演習時に、外国語の検定結果をもってきてください（英語、中国語、韓国語の内、自分が選択した言語について）。

スキ間時間スケジュールをつくってください

人は誰でも等しく24時間が与えられています。その時間をどう使うか、自己管理能力が問われます。起床から寝るまでの時間で、あいているところだけを抜き出し（食事、身支度、授業、クラブ・サークル・アルバイト等で予定が入っていることは色を塗る）、

※そこに、月曜日から日曜日まで何をするかを考え、書き入れたものを第1週目にもってきてください。

e ポートフォリオ「Progress Sheet」を使って学修指導を行います。

※自己評価シートに2年後期の自己評価を入れ、3年前期の目標を入力してください。

※キャリアシート、マイ言語シート、地域マインド育成シートにも入力をしてきてください。